

2012年の第2刷ではかなりの間違いは修正されていますが、まだ少なからずあるようです。お詫びいたします。以下の正誤表は第1刷に対してのものです。

- 筑波大学大学院武内先生がご自身のホームページで「スピントロニクス理論の基礎」の詳細な正誤表と解説を公開されています。感謝いたします。  
<http://dora.bk.tsukuba.ac.jp/~takeuchi/>  
 以下の正誤表以外にも武内先生のページにありますように たくさん間違いがあります。。

ページ、行、式	誤	正
p.15,2,9行目	$1\text{ev}/k_B$ が2重に出て値も違っている	$1.7 \times 10^4\text{K}$ が正しい
p.17,表2.1	$\text{Fe}_{81}\text{Ni}_{19}$	$\text{Ni}_{81}\text{Fe}_{19}$
p.27,1.1-2	FeとNiの混合比が約8対2	NiとFeの混合比が約8対2
p.27,表2.2&1.2,5	$\text{Fe}_{81}\text{Ni}_{19}$	$\text{Ni}_{81}\text{Fe}_{19}$
p.33,1.6	$\Delta X/2$	$\Delta X/a$
p.41, 式(4.1)	$J$ の前の符号	$+J$ が正しい(強磁性)
p.42, 式(4.3)	$J$ の前の符号	$+J$ が正しい(強磁性)
p.58 式(5.3)	大括弧のなかの2項目の分母 $(1 +  \xi ^2)^2$	$(1 +  \xi ^2)$
p.61 式(5.20)	$\simeq$	$=$
p.80 式(6.16)		一番最後に $ 0\rangle$ が抜けています
p.123 最終式	$e^{i\mathbf{q}\cdot\mathbf{R}_i}$	$e^{i\mathbf{q}\cdot\mathbf{R}_i}$
p.124 式(8.119)	$e^{i\mathbf{q}\cdot\mathbf{R}_i}$	$e^{i\mathbf{q}\cdot\mathbf{R}_i}$
p.136,脚注	$k_F \ll l$	$k_F^{-1} \ll l$
p.139,最終式	$(1 + n_i v_i^2 I_{\mathbf{q},\Omega})$	$(1 - n_i v_i^2 I_{\mathbf{q},\Omega})$
p.140, eq.(9.36)	$[(g_{\mathbf{k}}^r)^2 g_{\mathbf{k}}^a - g_{\mathbf{k}}^r (g_{\mathbf{k}}^a)^2] \left( \frac{\hbar^2 q^2}{8m} + \frac{\Omega}{2} \right)$	$[(g_{\mathbf{k}}^r)^2 g_{\mathbf{k}}^a - g_{\mathbf{k}}^r (g_{\mathbf{k}}^a)^2] \frac{\Omega}{2} + [(g_{\mathbf{k}}^r)^2 g_{\mathbf{k}}^a + g_{\mathbf{k}}^r (g_{\mathbf{k}}^a)^2]$
p.141, eq.(9.39)	$-\frac{\hbar^4}{4m^2} (\mathbf{k} \cdot \mathbf{q})^2  g_{\mathbf{k}}^r ^4$	$-\frac{\hbar^4}{2m^2} (\mathbf{k} \cdot \mathbf{q})^2  g_{\mathbf{k}}^r ^4$
p.142, eq.(9.45)	右辺2行に $\tau$ が余計	$\tau$ なしが正しい
9-4節	電場 $E$ とベクトルポテンシャル $A$ の関係の符号違い多数	(9.68)式が正しい符号
p.150 以降	拡散の因子 $\frac{1}{Dq^2 - i\Omega}$	本書のFourier変換の定義に沿うと $\frac{1}{Dq^2 + i\Omega}$ が
p.186 3行目	電気伝導率	電気抵抗率

- ご指摘いただいた多数の方々に感謝いたします。